

令和 4 年度「学校教育自己診断アンケート」の結果について

春風の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、12月に実施いたしました学校教育自己診断アンケート結果について、下記のとおりお知らせいたします。この結果をもとにこれからの学校運営をより良いものにしてまいりますのでよろしくお願いいたします（全体のアンケート集計結果はグラフにして裏面に掲載していますのでご参照ください）。ご協力いただきましてありがとうございました。

記

1. 調査回答率

児童 87.6% (321名/365名) 保護者 57.2% (209名/365名)

2. 結果の概要と分析

※ アンケートは「そう思う」を1とし、「そう思わない」を4とする4段階評価の選択としています。
結果の特徴をとらえやすくするため1及び2を肯定的評価、3及び4を否定的評価として表現しています。前年度比較で上回ったところは+、下回ったところは▲で表しています。

(1) 主な共通項目について

	対象	設問	肯定的 (前年度比較)
1	児童	学校に行くのが楽しい	89.1 (▲0.8)
	保護者	子どもは学校に行くのを楽しみにしている	90.4 (+2.9)
2	児童	先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる	93.4 (▲0.9)
	保護者	先生は子どもの意見や考えを大切にしている	95.2 (▲1.1)
3	児童	落ち着いた雰囲気の中で授業をうけることができる	85.1 (+6.0)
	保護者	学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている	87.6 (▲0.3)
4	児童	授業はわかりやすい	93.8 (+1.8)
	保護者	先生はわかりやすい授業づくりに努力している	96.3 (▲0.1)

本年度も、「すべての児童が、心を通わせる力を磨き、いきいきと学ぶことができる学校」をめざして、「一人一人の居場所のある学級」、「わかる、できる、と児童が感じる、魅力のある授業」、「温かみのある、落ち着いた学ぶことができる環境」を重点に取り組んでまいりました。

上記4項目のうち、1につきましては、昨年度に引き続き、10%を超える児童が「学校に行くのが楽しい」とはいえない状態であることがわかりました。また、2につきましても、6%を超える児童が否定的な回答をしています。これらの児童一人一人の心の声をしっかりと受けとめられるよう、教職員一人一人の子どもを理解する力の向上を図っていきます。また、保護者の皆様と丁寧に連携しながら、子どもたちが学校での学びを楽しみにできる環境をつくってまいります。

3の項目につきましては、昨年度より6ポイント増加がみられました。子ども自身が、学ぶ環境について、自ら協力しあって作りだすことの大切さを意識し、努力している姿勢の表れであるととらえています。4の設問では、昨年度より向上がみられたものの、約6%の児童が否定的な受けとめをしています。2の回答割合とほぼ同数となっているのは関連性があると受けとめ、ユニバーサルな視点で授業を見直し、さらに改善を図っていきます。

保護者の皆様のご理解とご協力のもと、今後もさらなる充実のために尽力してまいります。

【保護者用アンケート：肯定的な回答の割合が高かった項目】

昨年度に引き続き、「先生は子どもを、きちんとほめたり、叱ったりしている」「先生は子どもの意見や考えを大切にしている」「先生は子どものことを正しく評価している」等、教職員への信頼に関わる項目に高い割合で肯定的回答をいただきました。ただ、昨年度よりポイントが高くなっているものもあれば、1ポイントほど低くなっているものもあり、安心・安全で信頼される学校づくりに引き続き努力していきます。

【児童用アンケート：肯定的な回答の割合が高かった項目】

「先生は私たちにわかるように、きちんとほめたり叱ったりしてくれる」、「先生はわたしたちの意見や考えを大切にしてくれる」、「授業はわかりやすい」等の項目が、昨年度とほぼ同程度の高い肯定的回答を得ることができました。特に、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の項目では昨年度より4.2ポイント向上しており、主体的・対話的で深い学びのための授業改善の効果が出ているととらえています。今後も、肯定的な回答ができなかった児童に、より目を向け、本質的な視点で、モチベーションが高まるような指導をめざしていきます。

【保護者用アンケート：肯定的な回答の割合が低かった項目】

「子どもは家で、自分で計画を立てて勉強している」、「子どもは家で、『学習』の時間を決めている」、「子どもは家で、学校の授業の復習をしている」が、肯定的な回答が37.3%~47.4%と、昨年度より3~5ポイント高くなっているものの、低い割合となっていました。特に「子どもは家で、本を読んでいる」は、37.5%と、昨年度より2.4ポイント低くなっており、より本に親しむことができるよう、読書への動機づけに力を注ぐ必要があると考えます。

次年度は、コミュニケーション力を育む、演劇的手法を生かした指導を、校内全体で取り組みます。そのなかで、言語によるコミュニケーションの楽しさや面白さ、大切さを子どもたち自身が感じ、自己肯定感を高めていきます。これらの取組を充実させるためにも、読書への動機づけは重要であると考えています。

ご家庭でも、子どもたちが、読書や生活上での気づきや感動を話したときに自己肯定感を高めるチャンスです。「達成感を褒める」、「子どもの発見や気づき、感動を共有する」という場面をつくっていただけますようお願いいたします。一緒に喜ぶことで、児童の自己肯定感は、さらに高まります。その自己肯定感が、自信につながり、それが、やる気のエネルギーとなっていきます。

【児童用アンケート：肯定的な回答の割合が低かった項目】

「家で、学校の授業の予習・復習などをしている」の項目への肯定的回答は56.9%でした。昨年度より9ポイント低下しており、「自ら学ぶ動機づけ」が十分できていないことを示しています。一方で「本を読むことが好きだ」が75.8%と、昨年度よりわずかに向上していますが、意識の高まりといえるほどの変化は起こせてはいません。

学ぶ動機を児童自身が自分で見つけ、学びの目的として位置づけられるように、日々の授業をキャリア教育として価値つけていきます。また、家庭で主体的な学びができる力を子どもたちに身に付けさせていく工夫を重ねていきます。

3. 学校教育をより良くするためのご意見欄にご記入いただいた事項について

建設的なご意見を多数お寄せいただきありがとうございました。また、多数のお褒めの言葉、激励のお言葉等もいただきました。それぞれ真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしていきたいと存じます。特に全体に関わる部分の事項については次のとおりです。

【ご意見】

- ① こうすればいいと言うほどではないですが、子供がトイレが汚い時があると言っているの、洗剤を使っただけのこまめな清掃が実施されると良いのではないかと思います。
- ② 学校は勉強だけでなくいろんな人との関わりを学べる場所だと思いますので、先生や子供たちの個性を大切に「みんな違ってみんないい」ということを学べる場所であって欲しいなあと思います。
- ③ すでにされているかと思いますが、先生方によって授業の取り組み方が異なると思うので、良いところを取り入れるためにも生徒、先生方共に、他学年、他クラスとの繋がりを強化していくのはいかがでしょうか。

① ⇒ 府の感染症対策マニュアルを参考に、換気の良い状態で子どもたちへのトイレの清掃指導を行い、美化意識を高めることで、使って気持ちの良いトイレを実現できるように尽力していきます。

②③⇒ 校内研修等の機会の際だけでなく、日常的にお互いの良いところを取り入れあう取り組みを、これまで以上に意識していきます。また、共通した継続的な指導として、演劇的手法を活用したコミュニケーション教育を校内全体で実施し、違いを認め合う寛容性も育みます。

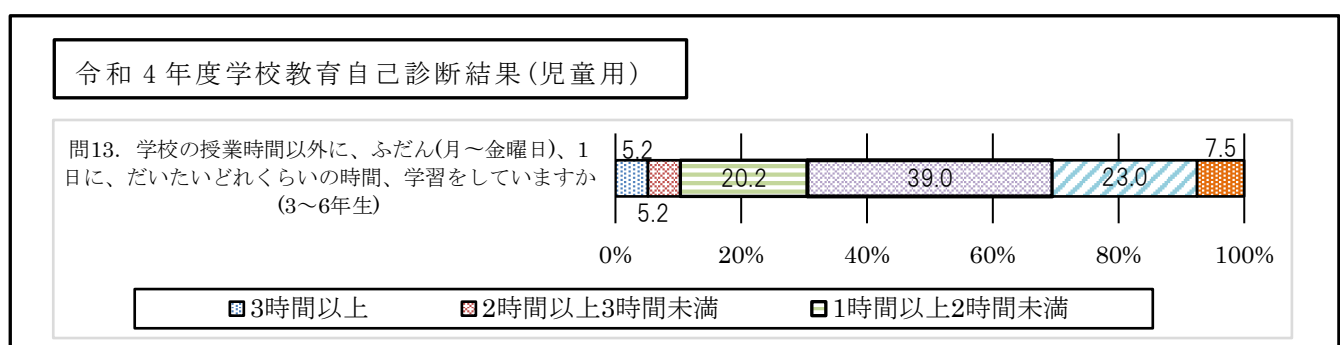
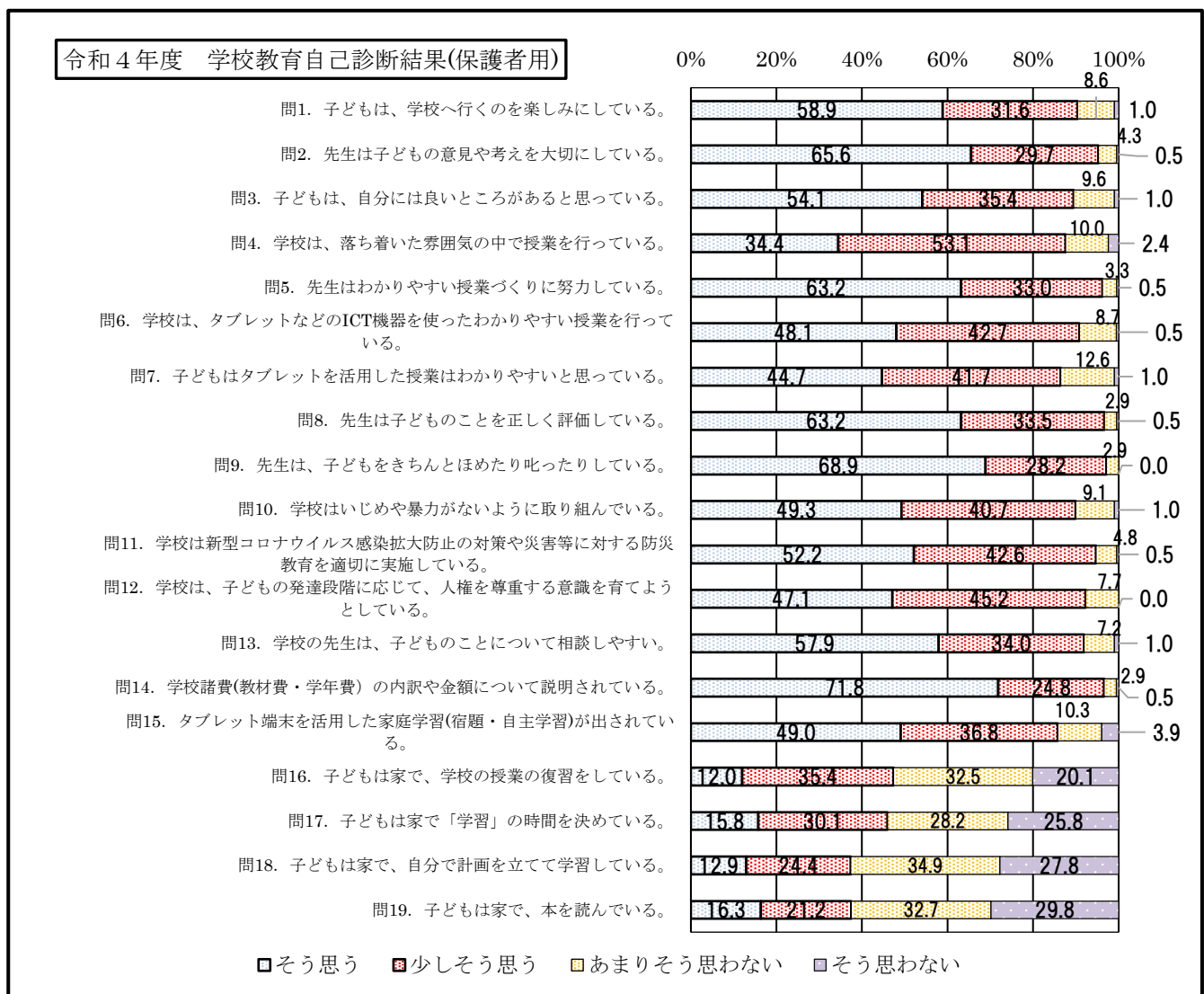
【汎用的想像力を育む指標としてのアンケート項目の肯定的回答】

- ・文を読むとき、何が書かれているのかよく読んで理解しようとしている。
⇒87.8% (昨年比-2.0%)
- ・人の話を最後まで聴いて想像し、話している人が伝えたいことを理解しようとしている。
⇒92.4% (昨年比+3.5%)
- ・自分が書いたり話したりするとき、受け手を想像して伝わるように努力している。
⇒86.6% (昨年比-0.1%)

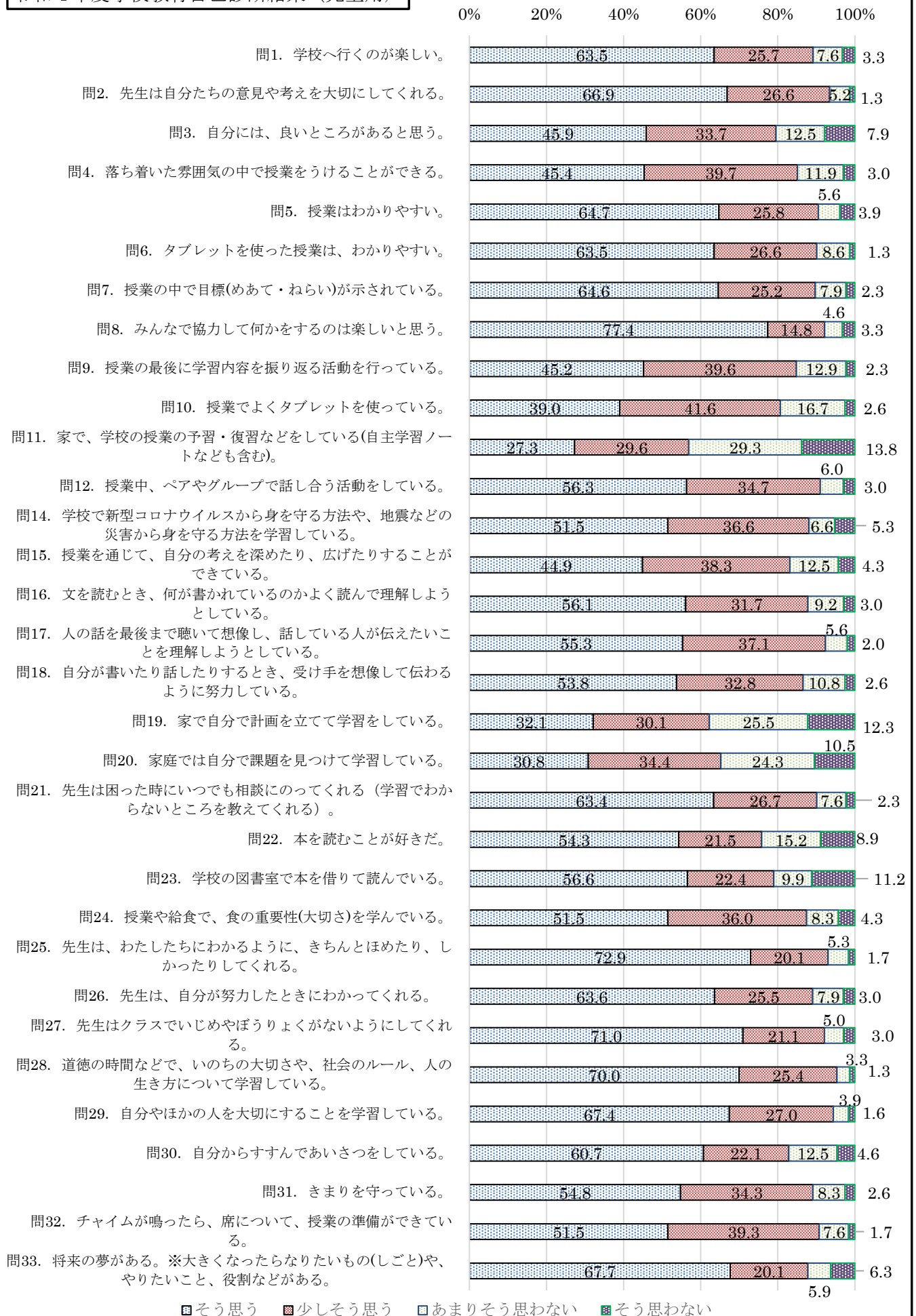
<分析> 聴く姿勢には向上がみられたが、読む力、伝える力の育成の強化が今後の課題である。

4. 終わりに

今回いただきましたアンケート結果は、全教職員で共有し、来年度に向け、より良い学校をつくるために活用させていただきます。今後とも、学校への変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和4年度学校教育自己診断結果（児童用）



■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない